評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104050
法人名	有限会社山崎介護センター
事業所名	グループホーム とみひさ
所在地	愛媛県松山市富久町95-5
自己評価作成日	平成24年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○今は重度化しておられる利用者さんが多くなっているが介護の工夫をし対応している。○全員でのお出かけが難しいので個別に出かけている。○旬の物をおいしく食べて頂けるようにしている。○野菜やお花をホームで作って楽しんでもらっている。○寝たきりの方にじょうそうを作らない為ベットから離床して頂き、入浴も出来るだけ入って頂く。入浴が無理な日には清拭をしてくれる。○利用者さんの動きがすぐに分かり対応出来る。○ありがとうございます、利用者さんと職員共に多いホームです。○外部の方が気軽に立ち寄ってお話出来るホームだと言って下さる。○希望や1人1人に合わせた食事を工夫している。○職員の入替わりがほとんどなく馴染みの関係が持っている。○職員が仲良しです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所の道沿いのフェンスや庭には草花や野菜を植えておられ、通りを歩く地域の方との会話のきっかけになったり、お花をあげたりもらったりして、おつきあいされている。以前、猫を飼っていた利用者は、近所のお宅の猫を見に行くことを楽しみにされている。お隣の方が釣った魚をおすそ分けしてくださったり、又、事業所の裏のお宅の方には、お風呂に入る際、にぎやかなことをあらかじめお話し、理解していただいている。事業所で東日本大震災の義援金を集めるバザーを開催された際には、町内放送で案内を放送してくださった。
●代表者が、山菜を採って来られたり、お知り合いから釣った魚をもらったり、又、庭でもみょうがやツイモ、しそ等の野菜を育てて、旬のもの新鮮なものを多く採り入れた食事内容となっている。利用者は、肉やてんぷらもお好きで、又、お誕生日には、大好物の「しょうゆめし」や「お寿司」を個々がリクエストされる。正月には、利用者がおいしいお雑煮を食べられるよう、お汁に具をたくさん入れ、具の白菜等で餅を巻き、のどに詰まらないよう、気を付けながら食べられるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム とみひさ

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏名 山崎 カツコ

評価完了日 24 年 7 月 18 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) カンファレンス時に理念の見直しをしている。理念に基づき、毎日小さな目標を作り実践している。ご本人さんの思いを大切に穏やかに過ごせるよう対応している。眠りたい時に眠り、食べたい時に食べて頂く。ゆっくり、のんびり、心穏やかに生活できるように支援している。</p> <p>(外部評価) カンファレンス時に理念の見直しを検討されたが、職員から「このままの理念で利用者を支援していきたい」という意見が多く、開設時作成された理念を継続して掲げておられる。法人代表者は、介護・看護職員の経験があり、職員の気持ちをよく理解され、大切に思っておられる。職員の離職もほとんどなく、職員も代表者の思いを理解して日々取り組まれている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 猫が大好きな利用者さんをご近所で飼っている猫に散歩時触らせて頂いている。(飼い主の許可をいただいている。) 日常的にお花を頂いたり上げたりしている。年1回バザーを行い地域の方に沢山来て頂いている。地域の行事には利用者さんと参加して楽しんでいる。洗濯物を近所のクリーニングやさんに持っていつている。</p> <p>(外部評価) 事業所の道沿いのフェンスや庭には草花や野菜を植えておられ、通りを歩く地域の方との会話のきっかけになったり、お花をあげたりもらったりして、おつきあいされている。以前、猫を飼っていた利用者は、近所のお宅の猫を見に行くことを楽しみにされている。お隣の方が釣った魚をおすそ分けしてくださったり、又、事業所の裏のお宅の方には、お風呂に入る際、にぎやかなことをあらかじめお話し、理解していただいている。事業所で東日本大震災の義援金を集めるバザーを開催された際には、町内放送で案内を放送してくださいました。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 職員が6名認知症サポーター研修を受けている。サポーターの講師を依頼されれば快くしている。ご近所からの相談を受けアドバイスをしている。ご近所の方を出来るだけ受け入れるようにしている。(管理者に認知症ケア専門士の資格あり)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 奇数月の第2土曜日に定期的で開催している。重度化してゆく利用者さんの対応や、手のかからない利用者さんの対応について、状況報告をしている。ご家族さんからいろいろ役に立ちやすく楽しいと言っている。職員も意見交換することで、勉強になり初心に戻って仕事ができる。日々のケアに活かしている。年始めは交流を図るために会費を頂き親睦を兼ね外で運営推進委員会を開催。</p> <p>(外部評価) 会議には、ご家族・民生委員の方や他事業所の職員も参加されている。会議は、「熱中症・脱水について」「看取りについて」「災害対策」等、その時々話題や事業所の現状等にも沿いながら、議題を決めすすめておられ、参加者の考え等も聞かせていただきながら話し合ったり、事業所での取り組みを報告されている。ご家族も4～5名参加してくださり、ご家族の中で「成年後見制度について知りたい」という声もあり、ともに勉強されたこともある。ほとんどの職員が自主的に参加されており、ご家族や地域の方と意見交換することで、それぞれとの関係を深めておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社協や市の職員さんが顔を見に来ましたとよって下さり「ここは居心地がいいね」と言って帰られる。運営推進委員会でもアドバイスを頂きます。わからない事や困った事はすぐに相談している。</p> <p>(外部評価) 市の担当者は、運営推進会議時に、節電等、市の取り組みを話してくださったり、事業所から重度化や看取り支援の報告を行った際には、意見交換の中で他事業所での取り組み等も交えて、「ホームは家と変わらないといった認識はなくしてほしくない」と話された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関には鍵をかけない。出入りは自由に出来るが常に利用者さんの行動を見守りと気配りしている。どうしてもつなぎが必要な場合には、ご家族さんとカンファレンスを行い、話し合い同意をえている。長く続けることなく、様子を把握し出来るだけ早く拘束を中止するように努力している。身体拘束についての研修を職員は受けている。拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 夜間、居室にて便を体や衣服に付けてしまう利用者があり、ご家族と話し合い、つなぎ服を使用したこともあったが、日中、排便できるようコントロールして状態が改善し、つなぎ服を着ずに済むようになった事例がある。2階は居室になっており、階段の降り口の扉には、夜間は転落防止のために鍵をかけている。利用者が「開けてほしい」と言われる時には、職員が鍵を開け見守るようにされている。夜間、トイレを間違う利用者には、居室の戸に鈴を挟み、戸を開けたら鈴の音が鳴るようにして、職員が見守る等している方もあった。「帰りたい」という利用者には、「暑いから次に次はしようか」等と気を紛らせたり、ご自宅の近くにお寺があった方には、事業所の近くにあるお寺に出かけてみたりされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待についての研修を受け理解している。カンファレンス時にも話し合いニュースになるような虐待について、なぜそうなるのか話し合い、虐待を見過ごさないようにしている。自分がされて嫌なことはしないケアに努めている。職員の対応を知るため管理者が時々ホームで泊まっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前入所されていた利用者さんが後見制度を利用されておられた。その後見人の先生に勉強会で話を頂いた。後見制度の研修にも参加している。日常生活自立支援事業を利用している方がいる。後見人制度を現在勧めている方がいる。(娘さんが病気で)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前にはご本人さんや、ご家族さんに何度も来て頂いたり、こちらからも訪問して十分に時間をかけ説明を行い、納得して頂いている。退所後も関わりを持ち続け悩みや困っておられる事の相談を受けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関する書類や、運営推進委員会の議事録は玄関先に置きいつでも閲覧できる様にしている。家族会を年1回行い意見をだせる機会を設けている。意見箱を設置しているが、今まで1度も苦情はありません。苦情処理窓口もあるが開設から1度もありません。	
			(外部評価) 毎月事業所便りを発行されており、写真を多く採り入れて音楽療法やお出かけの様子や表情等をより具体的に伝えたり、「来月の行事予定」を載せ、ご家族にも行事案内をされている。毎月、ご家族に送付するお手紙には、ご家族に安心してもらえるように、できるだけ「いいエピソード」を書くようにされている。ご家族の中には来訪時、必ず介護記録をみられる方もある。自己評価に取り組み、事業所では、「ご家族との信頼関係作り」の大切さをより感じられた。家族会や行事・運営推進会議への参加等、意見交換するような機会も多くあり、現在、ご家族から感謝の言葉が多く、満足度も高い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンス以外にも管理者と話すする機会は多くある。運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映している。	
			(外部評価) 利用者の要望等にも応えられるように、職員数も手厚い体制を作っておられる。耳が聞こえにくい利用者には、職員のアイデアで「便が出るお薬ですよ」「痛みを和らげるお薬ですよ」等、メッセージを書いたものを用意しておき、必要に応じてご本人にお見せしてやりとりをされている。日報には、夜勤者が次の日の目標を書くようにされており、その下に日勤者が実践したことを書き取り組みを続けておられる。「雨が降るのでゆっくり過ごしましょう」という目標に「お茶を飲みながらゆっくりしました」というようなお返事を書いておられる日もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者はゆとりのある勤務人数で冠婚葬祭などにも有給が取れるようにしている。1人1人のことを考えての助言もあり職場環境、条件等について満足している。イベント所の外出ボランティアにも楽しんで参加している。研修を受け資格を取りモチベーションをたかめている。(資格手当あり)職員の入れ替わりがなく皆が満足していると思う。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修時間は十分に取って貰い協力がある。研修を受けたものから勉強会で発表をして共有している。研修に行く事をすすめて時間や休みを取れるようにしている。資格取得をすすめている。個々のケアや力量を把握して職員を育てる努力をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者はいろいろな研修に参加し同業者とネットワークを広げている。わからない事を相談したり、意見の交換をしている。職員にも相互研修の参加や同業者と交流が持てるようにしている。他のホームとお花見をしたり、運営推進委員会に参加させてもらっている。入居の紹介、ボランティアに来て頂いたり、最期の時に一緒にお葬儀に行きました。教えて頂く事が多いです。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所までに時間をかけている。ご家族さんの悩みをお聞きしたり、ご本人さんと一緒に何度も来て頂き、こちらからも伺い信頼関係を築いている。入所前にはしっかりとアセスメントをしている。センター方式を利用し生活歴を把握している。入所後はご本人さんの状況がわかり、ご本人さんが安心できる様に夜一緒に管理者が休んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 時間をかけてご家族さん、ご本人と信頼関係を築くように努めている。とみひさでのサービスについて十分に説明している。入所までにご本人の状況の把握につとめている。ご意向を伺いながらケアプランを作成している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期対応の見極めをして支援している。他のサービスを薦めたり紹介したりしている。入所になればアセスメントに時間をかけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人とご家族と共に支えあう関係作りに努めご家族さんから「ここに入って良かった」と言って頂けるようにしている。モニタリングを行い暮らしを共にし、小さなことで喜びあえる関係作りで職員も癒されている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでも気軽に来所して頂けるようにしている。外出が出来る方はご家族と旅行をされたり、食事に行かれています。来所の少ないご家族さんには、通院介助に同行して頂き絆を大切にしている。入院で退所されても面会に行ったり、最後までご縁を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 住んでいた近くの石手寺にお参りに行ったり、旦那さんのお墓参りに行っている。入所前にご家族さんに、センター方式を記入して頂き、馴染みの人や行きたいところ、大切にしていることを把握し支援に努めている。ご家族さんの写真を飾ったりしているが、逆に写真を見て不穏になられる方もおられ写真を飾れない方もいる。 (外部評価) 管理者は、利用者のご家族との関係も大切に考えておられ、利用者のご家族のつながりを作ってもらえるよう、通院介助をご家族にお願いされた。ご家族は「みなさんたいへんなのですね」と事業所へのさらなる理解をいただいたようだ。利用者が、ご家族と県外にお墓参り等に出かけた際には、事業所から服薬や排便のリズム、歩行状態等について注意すること等を伝え、ご家族が安心して利用者とお過ごせるよう支援された。	職員の離職も少なく、職員と利用者との関係は深まっているようだが、利用者個々の状態や個性のこともあって、利用者同士は、つながり難さもあるようだ。グループホームは、利用者個々がともに暮らす共同生活の場でもあり、仲間と「心穏やか」に暮らせるよう、今後さらに、いろいろな場面作りにチャレンジして、職員はつなぎ役を工夫してみたい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話が成立せず無言で向き合っている時、中に入り声掛け、話題が広がるように努めるが会話が続きにくい。カルタ、トランプ等をして皆が参加できる様になっている。食事時声を掛け合いホールに降りてこられる人もいる。孤立しないように職員が気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院退所になっても、ご家族の相談に乗ったり支援している。亡くなられてからも、ご縁を大切にご家族さんと交流を持っている。(野菜や釣り魚を持って来て頂いている) 亡くなられた時には、職員がお葬儀に参列している。退所されたご家族さんからのご紹介で入所された方もおられます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) お一人お一人の思いを大切に支援している。希望に添えるように常にカンファレンスで検討している。24時間シートに記入し行動のパターンを理解するように努めている。食べた時に食べ眠りたい時に眠って貰っている。その時々に合わせて言葉かけをしている。 (外部評価) 最近、女性利用者が男言葉で話す様子がみられ、職員も男言葉で対応する等して、利用者に合わせて支援された。「痛い」と何度も言われる利用者があり、他の利用者が気にされる場合は、利用者の痛いという気持ちをわかってもらえるように、「この人はこけたから痛いよ」と伝える等されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し今までの暮らしを把握してご本人が望む生活が出来るように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りを徹底している。出来る事は時間がかかってもして頂いている。出来たら褒める。自由に生活が出来るように支援している。1日の過ごし方をそれぞれに把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人とご家族さんのご意向を伺い、カンファレンスで検討して、ケアプランを作成している。小さな達成できるケアプランを作り達成感を味わえるように、出来れば一緒に喜びあえるプランを作成するようにしている。モニタリングを行いご本人の希望ご家族の希望にそった、その時々合ったプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に担当職員を配置しておられ、居室の表札には担当職員の名前を貼り出しておられる。「モップかけをする」等、利用者個々のできることを行えるような「小さな達成できるケアプラン」を作ることに努めておられる。6ヶ月ごとの介護計画の見直し前には、モニタリングを行っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録には、ご本人との会話の内容等を記録して、日々の様子が分かるようにご家族さんの面会時に見て頂いている。出来るだけ良いエピソードを記録するようにしている。日々の出来事を細かく記入しカンファレンス時や、必要に応じてモニタリング、ミニカンファを行いケアの見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その時々生まれるニーズに柔軟に対応し支援している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 川の鯉を見に行ったり、ご近所の猫に会いに行ったり、近くの幼稚園、小学校を散歩して子供たちの声を聞いたのしんでいる。神社に初詣に行ったり、四季おりおり(田植え、七夕、盆踊り、お祭り、運動会)の行事を楽しめるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医院の先生は利用者の体調不良時にはいつでも応診に来て下さる。かかりつけ医はご本人、ご家族の希望に従っている。受診介助はご家族さんと一緒に行き絆を断ち切らないようにしている。体調管理に注意し適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 協力医療機関の医師は往診にも来てくれ、利用者も医師に会えることを楽しみにされており、アイスクリームをお土産に持って来てくださることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化時はホーム長に報告し受診介助や看護を受けられるようにしている。個々の利用者の状況は常に把握していて、いつでも適切な受診や看護が受けられるようにしている。(管理者に看護師の資格あり)いつでもすぐに対応できる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が安心できる様になるだけお見舞いに行っている。早期に退院出来るように情報の提供をしている。ご家族さんが安心出来るように相談に乗っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にアンケートでどのように最期を迎えたいかお聞きしている。看取りご希望のご家族さんには、ホームで出来ること、出来ない事の説明を十分にしている。日々の記録を読んで頂き変化してゆく状況を分かって頂けるようにしている。ご家族さんが満足出来る看取りが出来るように職員に看取りについての勉強会を行っている。些細な変化もご家族に連絡して安心した看取りが出来るよう努力支援している。	
			(外部評価) 代表者は、運営推進会議の中で、「ご家族に満足していただけるような介護・看取りを行う」ことや、職員も、「ああしてあげればよかった、と思わないように介護をしていきたい」と、話しておられ、日々、ご家族との信頼関係作りに取り組み、「利用者には、ご家族も見守る中での最期を過ごしていただきたい」と考えておられる。看取りの時期には、ご家族と一緒におむつを替えたりして、かかわっていただけよう支援されている。終末期を迎えた方で、病院で最期を迎えることを望まない方が入居となり、事業所で看取られた事例もある。その後、運営推進会議にご家族が参加していただき、事業所に頼ることもでき、「ゆっくり看取ることができてよかった」というような感想を話して下さった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時に落ち着いて対応出来るように勉強会を行っている。日頃からご家族さんとも話し合いどのように対応するか職員は把握出来ている。急変時の対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員は昼夜を問わずいつでも連絡が取れ利用者の避難に協力できる。年2回はホームで訓練をしている。(1回は消防署員の指導で)地域の方々には日頃から支援依頼している。地域の防災訓練にも必ず参加している。 (外部評価) 事業所が所在する地域は、液状化地帯となっているが、建物の基礎をしっかりと造っておられることで、地震や自然災害時にも事業所が安全な場所となっている。東日本大震災後、おむつが保温効果等、いろいろな役目をするということが分かり、いざという時には地域の方達にも使用してもらわれるよう多量に備蓄されている。居室の棚には滑り止めを敷き、収納されており、台所やトイレの棚は斜めに造り、収納しているものが落ちにくいようになっている。11月には、消防署の協力を得て避難訓練を実施する予定となっており、地域の方達にも参加いただけるよう、声をかけることを計画されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お一人お一人に合わせた言葉で対応している。個人を尊重しプライバシーに配慮している。 (外部評価) 職員は、歯磨きやくつの着脱等を見守ったり、介助しながら「励まし、ともに喜ぶ」ように心がけておられる。看取り時期には、利用者の呼び方についても「ご本人がいい反応をする呼び方」を優先されており、ご家族の許可等も得てご本人に「ばあちゃん」と呼んでいるような場面もみられた。又、ご本人のお好きな言葉をかけると、とてもよい表情をされるようで、ご本人に「かわいいね」「好きよ」と、顔を撫でながら何度も言っておられた。「甘えたい」部分もあるが、「自分でできることは自分でしたい」と思っておられる利用者の方には、気持ちを否定せず、職員は、そばでいつでも介助できるように準備して見守りされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人がどうされたいのかご希望をお聞きしている。自己決定出来るやすいように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のご希望にそい支援している。食事なども時間に関係なく、ご本人が目覚められている時間に食べて頂いている。その日その日が楽しく過ごせるように利用者を優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人さんの好みで洋服など選んで頂いているが、イベント時やおでかけ時には職員が選んで来て頂いている。身だしなみやおしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ 出来る方出来ない方がおられなかなか難しいですが、豆の皮むき、もやしの根切り枝豆もぎ等を出来る方にして頂いている。下膳は出来る方のみカウンター迄持って来て頂いている。個々の好みは把握している。食事は楽しく出来るように会話しながら食べている。誕生日には好みの献立をお聞きして作っている。	
			(外部評価) 代表者が、山菜を採って来られたり、お知り合いから、釣った魚をもらったり、又、庭でもみょうがやツイモ、しそ等の野菜を育てて、旬のもの新鮮なものを多く採り入れた食事内容となっている。利用者は、肉やてんぷらもお好きで、又、お誕生日には、大好物の「しょうゆめし」や「お寿司」を個々がリクエストされる。正月には、利用者がおいしいお雑煮を食べられるよう、お汁に具をたくさん入れ、具の白菜等で餅を巻き、のどに詰まらないよう気を付けながら食べられるよう支援されている。他者との食事の量の差を気にする利用者も多く、盛り付け方等にも気を付けておられる。他の利用者が調理したり、食事にかかわることを良く思わないような利用者もあり、現在は、利用者が食事作りにかかわる機会は少なめのようなのである。調査訪問時は、プレートの器を使っておられたが、利用者によっては、食べやすいように小さい器に一品ずつ盛り付けておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 今までの習慣に応じた物を食べて頂いている。献立は職員が作っている。季節感が味わえるように旬の食材を使っている。栄養バランスを考え時々知り合いの管理栄養士にチェックして貰っている。個々の食べれる量を把握、ご自分で出来るだけ食べて頂いている。水分はチェック表に記入し好みの飲めるものを摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ほとんどの方はご自分で出来るが、声掛けを無視し「歯磨きはしなくていいです」と言われるが機嫌を取りとりして頂いている。出来ない方は職員が口腔の状態を知るためいつもしている。ご本人が出来る事はして頂いている。1日4回は口腔ケアをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限りトイレで排泄できるようにしている。個々の排泄パターンを把握し排泄の自立に向けて支援している。年々重度化し自立は難しくなって来ているので排泄があればすぐに交換するようにしている。ご本人がソワソワしたりの行動ですぐにトイレ誘導している。	
			(外部評価) 他の利用者がポータブルトイレを使っていると「自分も使いたい」と要望されることもあるが、職員は「使ってみる？」と留意され、ご本人が使ってみて判断できるよう支援されている。ご本人は使ってみて、「要らない、トイレに行けます」と言われるようだ。トイレに入り、「自分でできます」と言われる方には、ご本人にお任せして、時々様子をそっとうかがうようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に注意して飲食物に気をつけている。便が出たか確認している。時々体操や腹部のマッサージをしている。バナナ、ヨーグルトを毎日食べている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午前中の入浴が高齢者には良いとのこと。設立から午前中に楽しく入浴して頂くように心がけている。希望やタイミングをみて入浴の声掛けをしている。ゆず湯、しょうぶ湯、さくら湯、バラ湯などを楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 現在は、入浴を好まない利用者がほとんどであるが、時にはご自分から「入ります」と言われることもあるようだ。現在は、午前中が入浴時間となっており、週に2~3回入浴できるよう声かけや誘導されている。一番風呂を希望する方には、利用者には「一番風呂よ」と言葉かけして入浴に誘っておられる。湯上りのコーヒー牛乳を楽しみに入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 足にむくみのある方は日中にベッドで足を伸ばして休息するように支援している。ご自分で出来る方は自由に休憩されている。シーツ交換や、寝巻きを洗ったり、布団を干したり、気持ち良く眠れるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々のお薬情報を個別ファイルに入れ、お薬の作用、副作用を把握している。新しく処方された薬は副作用に注意している。工夫してお薬の飲み忘れがないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) モップかけや台拭きをして頂いたり、一緒に掃除をしながら会話を楽しんでいる。お部屋でご自分の好きなお菓子をカロリーに注意し食べている方もおられます。体操や歌を歌ったり、カルタ、トランプ、をしている。ホームの犬くちちゃんと握手をしたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩をしている。ご本人の希望で石手寺にお参りに行ったり、ご家族さんと大阪に行かれたりしている。ホームでのお出かけ時にはボランティアさんをお願いしている。ご近所の猫に会いに行ったり抱かせてもらっている。	
			(外部評価) 外出時にはボランティアの方が来てくれ、利用者と一緒に出かけて楽しませてくれる等、サポートしてくださっている。ジャンボタクシーを利用して出かけることもあり、馴染みのタクシー運転手さんで、利用者のサポートをしてくださったりする。数人でスーパーに出かけて、お好きなものを見て回られたり、外食や喫茶店に出かける機会も作っておられる。外出されると、利用者が他の利用者に「気をつけないかんよ」等、声をかけ合ったりする場面もみられるようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人的にお金を持たれて買い物に行かれたりしている。(お金がなくなると不穏になられる事があるので職員が置き場所を決めている) 重度の方が多くなりお金を持たれる方が少なくなっています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いを書いたりしている。電話も希望があればかけたり、かかってきたらお話している。プレゼントが届いたらお礼の電話をかけて話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居心地の良い空間作りに努めている。毎月のイベントカレンダーをドアにはっている。季節の花を活けて楽しんでいる。季節感が味わえるように山菜(つくし、わらび、たけのこ等取ってきて見て食べて頂いている。)外に出れば季節の花や、野菜を植えている。ホールは人がいて楽しいと安心して過ごされ、自由にお部屋に行ったり来たりしている。音楽療法で季節の歌を唄いとても喜ばれている。</p> <p>(外部評価) 玄関を入るとすぐに居間があり、来訪者は、利用者になちよつと声をかけやすい雰囲気となっている。庭には草花が手入れされており、居間にはお米を購入している農家の方からいただいた鬼ゆりが飾られていた。居間には最近の行事等の写真が飾られてあり、新しい写真が出来上がるごとに貼り替えておられる。ご家族等が来られた際に見られ、お話のきっかけにもなっている。浴室のコールブザーは、押しても音はせず、居間でランプが付き、職員に分かるようになっている。又、居室等の引き戸には、閉めた際に音がしないよう消音テープを付けておられ、音等にも配慮をされている。午後から、居間のテーブルと食器棚の間に職員が布団を敷き、昼寝される方もみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールの椅子は座るところが決まっている。カルタ、トランプ、風船バレー等をして楽しんでいる。1人になりたい時には自室で過ごしている。職員が中に入りことわざ遊びをしたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた物を(タンス、ポータブルトイレ、座椅子等)持って来て頂いている。ご家族さんとの写真を飾ったりしている。畳希望の方には畳、敷物希望の方は敷物を敷いている。ご本人が居心地良く過ごせるように家族さんとも話し合っている。</p> <p>(外部評価) ベッドで横になって過ごす時間の長い利用者は、お孫さんやひ孫さんの写真を引き伸ばして見やすい場所に貼っておられた。音楽療法の先生が来られる時には体の方向を替えて、みな様が見えるようベッドを少しギャッジアップして、居室から参加されたり、又、先生が居室に来てくださり、歌を聞かせてくれて、涙を見せられたこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 個々の能力を活かし安全な生活が送れるように工夫している。トイレの場所がわからない人の為に毎年干支の絵を工夫はっている。建物内はバリアフリー。出来る事は時間がかかってもして頂いている。</p>	